

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175200391		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・桶川		
所在地	埼玉県桶川市坂田東1-36-3		
自己評価作成日	令和3年9月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和3年9月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年同様新型コロナウイルス感染防止の観点から、例年どおり外部や家族様が施設に自由に入館できるような状況ではなかった。その為ご家族様においても中の様子・ご本人様の様子が分かりづらく不安に思われる方も多かったと思います。  
事業所としてその中で出来る事を全職員で模索し、近況報告の用紙を写真付きの物に変更しました。外出行事等が全くできなくなったので、施設の中で毎月行事レクリエーションを行うようにし、ホーム全体行事を年1回から年2回にして入居者様が楽しんで頂けるような行事等に取り組みました。  
会社の中の取り組みの1つのスタッフブログを活用し、毎月各フロア4件を目標に投稿しご家族様にも行事の状況やご本人様の様子を確認しやすいようにしました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR高崎線桶川駅東口より加納公民館行のバス「みのき」で下車し、徒歩5分のところにある、鉄筋コンクリート造り3階建て3ユニット定員27人のグループホームである。  
周辺は畑や住宅に囲まれており、静かな環境の中にある。  
毎月行事、レクリエーションを行っており、5月には元気まつり、11月には秋祭りをを行い、入居者に楽しい日々を送って頂けるよう取り組んでいる。コロナ禍のため面会が思うようにして頂けないため、暮らしぶりなどをわかりやすく伝えるための工夫を日々考えながら取り組んでおり、スタッフブログを頻繁に更新して、行事での様子などを投稿し、家族もブログを見るのを楽しんでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム内にGH桶川の理念「明るく・元気に寄り添う介護」と掲示し、職員一同共有している。	管理者は玄関やスタッフルームに「明るく・元気に寄り添う介護」の理念を掲げ、浸透を図っている。職員も理念を共有し、実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している為、回覧板が回ってくる。 4ヶ月に一度防犯パトロールを地区で行っており、事業所職員も参加している。	自治会の入会し、職員は地区の防犯パトロールに参加しており、交流を図っている。現在、地域の環境等を考慮し、入居者の散歩は自粛しているが、従前は頻繁に出掛け挨拶などを交わしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染防止の為、外部とのかかわりが遮断されてしまっているが、例年は穏やかな日には散歩に行かれ地域の方と挨拶を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止の為、会議を行っていない。 ご家族様・社協・行政に手紙を出し、意見・要望を募りそれにお答えする形式をとらせてもらった。	現在はコロナ禍のため開催できていないが、包括支援センター、社協には状況報告等、書面で連絡をし、意見や要望を募り対応している。家族には毎月電話、便りで近況報告をし意見、要望を伺っている。	今後もコロナ禍の先行きが不透明であるが、運営推進会議の参加者との繋がりを維持し、地域や行政の意見、要望をサービスの向上に生かす取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	例年ではオレンジカフェを行うことで、現在の状況の共有を行っていたが、今年は運営推進会議の案内にて意見・要望を募った。	管理者は日頃より市の担当者と定期的に連絡を取り、事業所の現況を報告しており、良い関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH桶川では「身体拘束(疑われる行為も含め)行わない」と掲げており、職員一同共有している。 玄関は目の前が道路であり、交通量もある為施錠している。	定期的な研修を行い、正しい理解に努めており、スタッフルームや玄関に「身体拘束(疑われる行為も含め)行わない」と掲げ、全職員が身体拘束をしないケアについて共有して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	排泄・入浴時にさりげなく身体チェックを行っている。 傷・アザが見られた際には写真を撮り、連絡ノートに記載し情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方はいらっしやらない。 今後必要な方がいる場合には、ご家族様・包括と連携し対応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず契約の説明を行っている。 退居の際には必要に応じて介護連絡票を作成している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染防止の為面会が出来ませんが、荷物等を届けてくれた際に現状の報告をさせて頂いている。他にも不明な点があった際にはご連絡しやすいよう関わりを大事にしている。	コロナ禍のため家族の面会時に意見を聴く機会がないため、毎月の便りや電話で近況報告をしており、その際に意見や要望を伺い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議・フロア会議を設けており、意見を募り、その場で対応策を職員で話し合っている。 個人面談等も行ったりと、相談し易い環境づくりを心掛けている。	職員会議やフロア会議で意見を聞き、みんなで検討したうえで運営に反映させており、業務の効率化などに繋がった。個人面談も年2回実施し、管理者は相談しやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回人事考課があり評価をする事が出来る。 得意な分野を活かし、不得意な分野は職員同士協力することでフォローしながら対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主催の研修会の日程を掲示しており、興味のある研修には参加できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染防止の為、外部との関わりがほとんど出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査では、ご本人様と向き合いお話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際・入居時等にご家族様とご本人様が望んでいる事、ご家族様が希望されている事をよく話し合い、今後のケアの方針を決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様のお話を聞いたうえでケアプランを作成している。暫定プランではホームに慣れて頂くことを中心に無理のないプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭き・食器拭き・洗濯物たたみ等ご利用者様に出来る範囲で行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の生活が分かるように月に一度近況報告を送っている。病院への受診も、ご家族様をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止の為、面会はお断りしている。 例年はご家族様やご友人等沢山面会に来てくださり、外出・外泊をされる事がある。	コロナ禍により面会の禁止をお願いしており、知人などの訪問はない状況であるが希望により家族などに電話の取り次ぎ支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士、変化に応じた対応を行っている。 レクリエーションを通じて孤立する事の無いよう職員が間に入り交流を持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方でも、「いつでもご連絡ください」と声掛けをしている。 例年では療養病院に入院された方のお見舞いに行かせてもらったりもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの見直しの前にはご家族様・ご本人様に意向を伺っている。意思疎通の難しい方には普段の様子・反応を見ながら少しでも本人の気持ちを汲み取れるように努め、サービス担当者会議にて検討している。	ケアプランの更新時には本人と家族の意向を伺い、スタッフ間で情報共有し、意向に沿うような内容に努めている。新しい入居者には家族から詳細な聞き取りにより、本人のニーズを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査で得た情報や、ご家族様と情報交換を行い、日常のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のサービス担当者会議にてアセスメントやモニタリングを行い話し合っている。 また、状態の変化を把握し対応出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議内のサービス担当者会議にて状態の共有を行い、現状に合った介護計画の作成を行っている。	毎月のフロア会議でサービス担当者会議を開催し本人、家族の意向を取り入れた介護計画をケアマネジャーが作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアの実践を行い、様子を生活記録に記載している。気づきや注意点は連絡ノートに記載し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常に見られる些細な変化等、必要な時には協力医療機関と連携を図り柔軟な対応を行っている。 ご家族様にも連絡し協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染防止の為、外部の方の入館をお断りしている。 例年では傾聴ボランティア・民謡ボランティア等招き楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科医・歯科医の訪問診療を行っている。	協力医療機関の往診が月2回、歯科の往診が月2回あり、これまでのかかりつけ医への受診は家族対応としている。適切な医療が迅速に受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来訪され、バイタルチェックや健康管理を行っている。 医療連携記録を活用し、気になる点を記載しておくことで、看護師来訪時にアドバイスや指示を頂けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	例年では入院時には、お見舞いに行き状態の把握に努めている。時には担当医・看護師と情報の交換を行い、ご家族様と連携し、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化が見られた際には、ご家族様・かかりつけ医と相談し、今後のケアの方針を決めていく。 また、ホームの中で出来る事をお伝えし理解して頂いている。	入居時、「重度化した場合の対応に係る指針」の説明をしており、重度化への支援の際は、医師による十分な説明を行いながら家族の意向を確認し、チームで支援に取り組んで行く方針であるが、現在での看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設の中にAEDが配置しており、万が一の際にはいつでも職員全員が対応出来るように訓練している。 例年では、救急隊員が来所され、心肺蘇生法の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	例年では消防隊員指導の下、昼夜の火災を想定した訓練を行っている。 現在は訓練概要を消防署に提出したのち、介護職員のみで昼夜を想定した通報訓練・避難訓練を実施している。	年2回の防災訓練の一回目を5月に実施しており、通報訓練や消防訓練を行った。11月に2回目を予定しており、夜間の想定及び避難誘導訓練を計画している。その他、自然災害に備えた備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の際は、特に注意してさりげない声掛けを行っている。1人1人の人格を尊重し、失敗や間違いを指摘せずありのままを受け入れ、その時々に応じた対応を行っている。	トイレへの誘導時は一人ひとり、人格の尊重に配慮した言葉掛けを行っている。入浴などの際にもプライバシーに配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で信頼関係を築けるよう努めている。個々に合った声かけを行い、強制的にならない様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごせるよう本人のペースを理解し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様・ご本人様の希望に応じて、訪問理美容を利用して頂いている。カラーやパーマを希望の際にも対応しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際には、ご利用者様の好きなものを伺って出前を頼んだり、おやつ作りに協力して頂いている。 毎食後の食器拭きは必ずご利用者様に行って頂いている。	食の楽しみを大切にしており、行事や誕生会には特別な食事を提供し、おやつは好みを聞いて職員と一緒に手作りで楽しんで頂いている。テーブル拭きや食器拭き等、出来る方には手伝って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を毎食事確認している。水分量の少ない方にはお好きな飲み物を提供し、むせ込みのある方にはとろみ調味料を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・歯科衛生士が連携し口腔状態の把握・清潔保持に努めています。水・日曜日の夜にはポリドント消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け・誘導を行っている。 おむつを減らす為、下着にパットを利用している。	排泄パターンを把握して一人ひとりがトイレでの排泄がうまくできるよう、誘導をしている。 おむつを減らすために下着にパットを利用するなど、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、毎日のラジオ体操・習慣体操を行い、食事時には水分を多めに摂って頂くよう声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望や習慣その日のバイタルに配慮し入浴や回数を決めている。	週2回、月曜から日曜まで入浴ができるようにしており、拒否のある方等は日を変更したりと柔軟な対応を行っている。季節のゆず湯や菖蒲湯なども行い喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じて安眠・休息が出来るよう支援している。(乾燥防止の濡れタオルを干す。居室に温・湿度計の設置等)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個々のケースを設けて、キャビネット内に保管してある。新規の薬は薬剤師からの注意点等伺い、連絡ノートに記載し情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き・洗濯物たたみ等、個々の能力に合わせてお手伝いやレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止の為、外出を自粛している。 例年では天気の良い日には散歩に行ったり、季節行事としてバラ園見学・ラベンダー見学等を行っている。	コロナ禍のため外出が思うようにできない状況であるため、屋内で楽しんで頂けるよう、食に関連付けたレクリエーションを工夫するなどの取り組みに力を入れている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に本人は所持していない。持っている方が安心する方には、少量所持して頂く等の対応をしている。また、買い物や必要な時にはいつでも使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話が使えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植木を飾ったりしている。廊下には日常生活の様子や行事の写真等を掲示している。	居心地よく過ごしていただけるよう、季節の花を飾ったり、植木を置いたりして生活空間づくりに配慮をしている。又、笑顔コンテストを企画し、スタッフブログに揚げ、家族に見て頂き、日々の様子を伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の中で共通のレクリエーションを行ったり、息があった方同士の席を近くにしたり等、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはテレビや仏壇・ぬいぐるみ等、本人にとってなじみのあるもの、かけがえのないものをもって来ていただき、安心して過ごせるよう配慮している。	入居時には安心して居心地よく生活して頂けるよう、馴染みの写真やラジオ、大切にしていた人形等を持ち込んで頂いている。職員は日々環境整備に努め、部屋は清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内の廊下・トイレ・風呂場には手すりが設置してある。歩行の際に障害になるものは置かない様配慮し、ご利用者様が居室やトイレが分かるよう貼り紙が貼ってある。		



事業所名 グループホーム みんなの家・桶川

作成日: 令和 3 年 10 月 14 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	消防訓練は年に2回実施しているが、災害時における人員の調整や、どれだけの職員がヘルプに来ることが可能なのか把握できていない。	災害時にすぐに職員全員が共有できるツールを用意し、対応に向かえる職員・別件により対応できない職員の把握。	グループのSNS等を活用し、定期的に安否確認等を行うことで、お互いに助け合える状況を用意し、運用していく事で共通認識を図る。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。